

## 6 大数の法則と中心極限定理

### 6.1 Chebyshev の不等式

$g(x) \geq 0$  について,

$$P(g(X) \geq k) \leq \frac{E(g(X))}{k}$$

となる。ただし、 $k$  は正の定数とする。

証明：

$g(X) \geq k$  のとき  $U = 1$ ,  $g(X) < k$  のとき  $U = 0$  となる離散型確率変数  $U$  を導入する。

離散型確率変数  $U$  は 0 か 1 の値を取り、その確率関数  $f(u)$  は次のように与えられる。

$$f(u) = P(U = u)$$

ただし,

$$P(U = 1) = P(g(X) \geq k)$$

$$P(U = 0) = P(g(X) < k)$$

となる。

このとき, 常に, 以下の式が成り立つ。

$$g(X) \geq kU$$

よって, 両辺に期待値を取ると,

$$E(g(X)) \geq kE(U)$$

となる。  $E(U)$  を求める。

$$E(U) = \sum_{u=0}^1 uP(U = u)$$

$$\begin{aligned} &= 1 \times P(U = 1) + 0 \times P(U = 0) \\ &= 1 \times P(g(X) \geq k) + 0 \times P(g(X) < k) \\ &= P(g(X) \geq k) \end{aligned}$$

したがって、

$$E(g(X)) \geq kP(g(X) \geq k)$$

から、

$$P(g(X) \geq k) \leq \frac{E(g(X))}{k}$$

を得る。

代表的な例：  $E(X) = \mu$ ,  $V(X) = \sigma^2$ ,  $\lambda > 1$  を任意の定数とする。このとき、

$$P(|X - \mu| \geq \lambda\sigma) \leq \frac{1}{\lambda^2}$$

$$P(|X - \mu| < \lambda\sigma) \geq 1 - \frac{1}{\lambda^2}$$

となる。

証明：

$g(X) = (X - \mu)^2$ ,  $k = \lambda^2\sigma^2$  とすると,

$$P(g(X) \geq k) \leq \frac{E(g(X))}{k}$$

から,

$$P((X - \mu)^2 \geq \lambda^2\sigma^2) \leq \frac{\sigma^2}{\lambda^2\sigma^2}$$

$$P(|X - \mu| \geq \lambda\sigma) \leq \frac{1}{\lambda^2}$$